

## 楽庵ニュース 第3号

2010年 7月 7日

発行元:NPO 法人茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア  
地域活動支援センター 楽庵  
茅ヶ崎市浜竹3-4-64石黒ビル2F

TEL&FAX 0467-86-5898

ホームページ <http://park11.wakwak.com/~rakuan>

メールアドレス [rakuan@aq.wakwak.com](mailto:rakuan@aq.wakwak.com)

\*長楽萬年(古代文字):楽しいことの幾久しく限らないこと。

### 地域の共生

楽庵が地域の作業所として誕生して、あつという間に7年が経ちました。この間、さまざまな形で地域の人たちとの共生を念頭に活動を行ってきました。

#### 松浪地区福祉協議会との連携

この地域の人たちは、社会福祉に高い関心を持ち、松浪地区社会福祉協議会を三十年余り前に組織して以来、地域社会の福祉の増進を図る活動を行ってきました。楽庵も設立と同時に、その一評議員に加えていただき、共に福祉事業の活動を行ってきました。

社会福祉協議会の年中行事の一つである福祉まつりに参加して、楽庵の日常の活動紹介の展示、楽庵通所者の陶芸や手芸品の作品を販売する模擬店を出店させてもらっています。また、時々福祉事業講演会、福祉関連の施設や企業の見学会などにも参加させていただいています。

#### パソコン教室・陶芸教室の開設

さらに今年度、地域の人たちに楽庵のメンバーたちと交流していただく機会を設けようと、楽庵の日常の活動であるパソコン学習や陶芸

への参加を募り、五月よりそれぞれの教室を開設しました。現在、パソコン教室には四名、陶芸教室には三名の方が参加され、メンバーたちとの語り合いも進んでいます。障碍のみに注目するのではなく、その人なりを理解して地域での暮らしを可能にしていければと希望しています。

#### 自治会への参加

この度、楽庵が浜竹三丁目の自治会の会員として参加することを認められ、さまざま地域での催し等のお知らせも受けることができるようになりました。この夏の納涼祭に模擬店の机を用意していただき、日頃の作品を展示即売もできることとなり、今から楽しみにしています。

#### 医療機関・当事者団体相談機関

#### との連携推進

神奈川県総合リハビリテーションセンターは今年度、湘南東部地区における高次脳機能障碍の啓発事業を実施する予定で、その地域での受け皿として関連医療機関や当事者団体相談機関との連携強化を図りつつあります。楽庵としても、この連携ネットワークが構築され、リハビリのための基盤が整備されるよう期待します。



### 湘南 四季の花

海岸にハマヒルガオが咲いている。さんさんと輝く太陽のもと、初夏の風景が広がる

茅ヶ崎市 浜須賀海岸

## 水季可奈さん 母校で講演

茅ヶ崎北陵高校

五月一日に司会を務めた水季可奈さんが母校で高校生に人生を語った。その機会になったのが、「新たな出会いパート④ 生きる力」のパンフレットだった。

今回は三吉譲先生のネーミングであえて障碍福祉に視点をあてて、講演とライブを行った。特に社会や経済の見通しのない時代、生きる方向性を探る目的で何が課題なのか話題提供をする企画であった。その司会を務めたことがきっかけで、水季可奈さんに白羽の矢があたり、進路の選択を考えている高校一年生対象の講話の依頼が母校からあった。

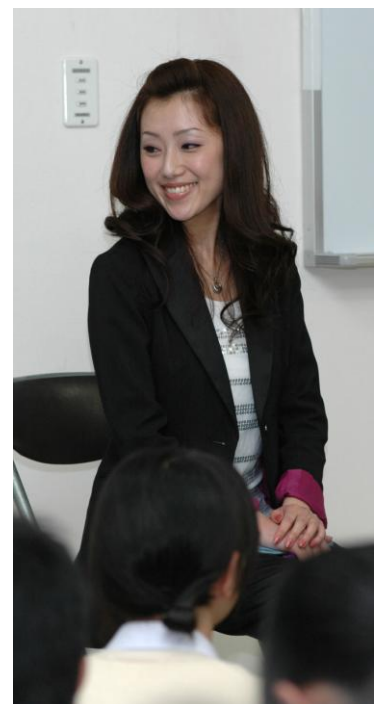
6月5日、一年生二百人の前で爽やかに高校時代のエピソードを語った。

水季可奈さんは、茅ヶ崎育ちの歌手で北陵高校時代

は目立たない普通の高校生だったようだ。小さいころから歌手になりたいと思っていたが、親にも打ち明けられないでいた。その温めていた希望を自身の力でかなえていった過程を丁寧に話した。だれもがポジティブに生きていけば自分の希望を実現できると高校生に伝えた。障碍のあるなしにかかわらず自分を知ること、好きになること、人生を楽しむことは大事だ。

水季可奈さんは、周囲の人に理解してもらえないまでの苦しさや自分らしさを引き出す努力をさりげないことばで紹介した。講演会「新たな出会い」が意図した目的が思いがけない方向で、現実には若い高校生への広がり展開したのだ。

茅ヶ崎北陵高校は宇宙飛行士野口聡一さんの母校でもあり校内には展示品があった。遠くに丹沢を望む美しい高校で学ぶ高校生が、ひとりでも勇気と自己実現する生きる力を感じて欲しいと思う。



★北陵高校での講演を終えて★  
“好きなことをもつとしたい！”  
という気持ちで自分自身と話し合って行動してきました。

いろんなことがあるけれど、一歩ずつ進んできたことが、先輩たちの何かに役立つならと講演させていただきました。

伝えたかった『夢は叶う』ことと

『諦めない』ことは、後輩たちの感想文を見て、伝えられたかなと思います。

『諦めていた夢にもう一度挑戦しようと思った』や『まだ夢はないけれど、いろんなことを経験して高校生活の中で夢を見つけた』などの感想を戴きました。

今回のお話しのお陰で、春から副校長になられた恩師にもお会いできましたし、私にとっても素晴らしい経験でした。ありがとうございます！！



水季可奈記



# あらたな出会いパート5 生きる力

を開催

今年で五回目の講演会を茅ヶ崎市小ホールで開催した。朝早くからメンバーで準備して講演前には茂木春樹さんの写真をピアノ演奏に合わせて上映した。遠く三重県などからの人もいて、多くの来場があった。

IT時代個人主義が横行し家族や地域の関わりが薄くなってきている。匿名で情報発信している若者の多くが現実の経験も伴わないで映像や文字の文化で浮遊している。今年をあえて障碍福祉をテーマに「生きる力」とネーミングした講演会を開催した。

三吉先生は快眠快食快便を損なう病気になるらないためには生活の在り方や人とのかわりをみなおす必要があると話した。臨床心理士の富沢佳代子さんは



「親子それぞれを中心としてさまざまな情報や支援者とききあうことが大切」と聴衆に呼び掛けるように語った。中途障碍の磯部浩司さん、吃音の岡秀幸さんもそれぞれ家族や当事者との協力のもとで主体的に能動的に人生を構築している生活を紹介した。障害あるなしにかかわらず地域のなか

で自由な発想と柔軟性をもって生きていくことは大切だと感じた。アンケートにもっと多くの方に聞いてもらいたかったと感想もあった。洲崎福祉財団の助成金やメンバーのボランティアで支えられた講演会は感動のうちに終了した。

## 就労支援講演会

六月五日、茅ヶ崎文化会館大会議室で、世田谷区立就労支援センタースキップ所長上滝彦三郎さんと世田谷区障碍者就労支援センターしごとねっと所長松田由紀子さんの講演会を開催した。世田谷区は全国的にも障碍者の雇用の取組みは有名で見学者も多い。スキップ



では作業を中心に基本的な働く力を身につける。社会生活力プログラムの提供、評価をもとにした定期的な個別支援計画作成を特徴とし就業率も高い。しごとねっとは精神障碍の方の支援を行っているが関連機関とのネットワークを基盤に迅速かつ的確なサービスを提供を行っている。障碍名ではなく何に困っているのかに着目して仕事をしている松田さんの姿勢に強い意志と柔軟な考え方を感じた。今後、茅ヶ崎でも地域にあったかたちのネットワークを構築していきたい。当日は行政関係者、就労支援を行っている専門職、当事者、家族が熱心に聴講していた。

## なんじゃもんじゃの木！

純白で清楚。雪をかぶったように咲く白い花。

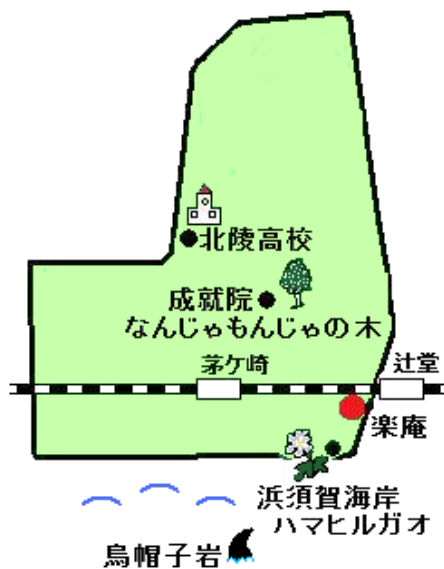
よく見ると、四つに細く裂けた花が集まっている。

“ナンジャモンジャ”は通称。モクセイ科、

和名はヒトツバタゴだ。

(茅ヶ崎市甘沼)

成就院の境内で)



この人  
楽庵職員 竹内嘉宏さん

現在週3日の非常勤職員を楽庵で、その他の日を精神障害関係施設でボランティアをしている。会社に勤務していた頃、仕事で親しんでいたパソコンをメンバーの皆に教える。そのために最新の情報に遅れないように雑誌等から知識を吸収する。これは少なからず学習に役立っている。他の仕事と同様にボランティア活動は約束時間を守るのが大事だが、拘束される時間を相手と相談して決めることができる。そのおかげで、どの活動にも時間を割くことが出来る。週3回の水泳では、1回に1時間で、2千メートル泳ぐ。水泳は高校時代からで、社会人になって水泳を再開してから30年を超えた。この2年位前からマスターズ水泳大会への参加を再開した。



50歳を過ぎてから始めたスキューバダイビングでは、毎年海外にダイビング仲間(全員60歳を超えている)と行っている。毎年の海外旅行と国内旅行を妻と共に楽しんでいる。これらが可能になるのは、楽庵での仕事であり、ボランティア活動で社会に繋がっている又、役に立っているという気持ちがあるからだと思っている。毎日5時頃に起きて、1時間ほどのウォーキングをしている。そのお陰?で風邪一つひかず健康を保っている。定年後このような世界を満喫出来るのは望外のことだと考えている。まだ、やったことがないスポーツで乗馬がある。機会を作ってやってみたいものだ。

**\*教室参加感想\***

(竹内記)

現在、竹内さんには、地域の希望する人たちに対するパソコン教室の先生を務めてもらっている。以下その生徒さんからの感想である。

まるで縁の無いものと諦めていたパソコンに触ることができ、年賀状作成までこぎ着けました。竹内先生の根気あるご指導のおかげで、水曜日が来るのが楽しみにになりました。また続けて行きたいと思います。

M・T

一番身近な家族がなかなか教えてくれず、この教室を知り、即決しました。根気強く指導してくださるので、継続し、色々なことを習得したいと思います。

Y・T

初回は、どうなるか不安でしたが、先生の指導がとても良く、毎回楽しく何とか続けることができ、パソコンに一層の興味を持ちました。

S・T

陶芸教室に参加して

楽庵の理事として会議に出席することはあってもメンバーの方とお話等したことが無かったので、顔見せということで参加しました。

楽庵のメンバーとはすぐお話し等出来、不安もなく仲間入りさせていただきました。今後は来所されているメンバーの為に一層の努力をしなければという思いを強く致しました。 楽庵理事 鈴木昌子

**編集後記**

楽庵ニュースを編集するスタッフには、写真担当の茂木春樹さんは欠かせない存在です。加えてメンバーや地域の方々の協力も大きな力になりました。講演会の記録をDVDに録画してくださる大澤訓一さん、写真の修正を専門技術で可能にする北脇和夫さん、ポスターデザインを担当する平井直樹さん等、皆手弁当で参加いただきました。デジタル情報の編集技術は、どこに出しても恥ずかしくないと自負しています。感謝しながら、次号を楽しみにしています。

皆さまの読後のご感想、ご意見をお寄せください。

